

# こみこみ

日立市のコミュニティ情報紙

発行：日立市コミュニティ推進協議会  
編集：コミュニティ情報紙編集委員会  
〒317-8601 日立市助川町1-1-1  
日立市コミュニティ推進課内  
☎0294-22-3111

## No.50

2023.3.20



最優秀賞「成沢学区」

### コミュニティ対抗「くさゼロ・フォトコンテスト」初開催

カレーの隠し味に何を入れますか？同じ料理でも、味付けによって全く違う味になります。

今年度、時代にふさわしい新たな取組として、「草刈り」に「アート」の味付けをした「くさゼロ・フォトコンテスト」を初開催しました。9月30日の「くさゼロの日」に合わせ、草刈りや清掃などに関する写真を各コミュニティに募集。応募写真は全230枚でした。

### こみこみとは？

「こみこみ」とは、市民の皆さんにコミュニティ活動の情報を詳しく伝えることを目的として発行されるコミュニティ情報紙です。

年に2回、9月と3月の市報に折り込んでお届けしています。

この情報紙のタイトル「こみこみ」は、コミュニティとコミュニケーションの頭文字を取って名付けられました。また、コミュニティや日立市の資源などをたくさん「込み込み」で掲載していくという意味も込められています。

### 目次

- くさゼロ・フォトコンテスト … 1
- こみこみとは？ …… 1
- 単会特集  
中里・仲町・助川・成沢 …… 2  
大久保・河原子・大沼・金沢 …… 3
- 行動計画 …… 4
- 編集後記 …… 4



優秀賞「宮田学区」



優秀賞「久慈学区」

## 中里 つながりを力に!!

少子高齢化・人口減少化対策として、乗合タクシー運行や小中学校の特認校制度を実施中です。最近、学区内唯一の医院が閉院となり、コロナワクチン接種が不便になってしまいました。市と協力して中里交流センターでの集団接種を11月に2回、12月に2回実施し、特に高齢者の利便性を図りました。



## 助川 地域で育む・地域の子 学校子ども会7年目

助川学区は、市の中心に位置し公共機関や文化施設が整っていますが、子ども会活動が停滞していました。子どもたちと地域の関わりを重視し、学校の教育活動の一環として、助川小学校児童全員が参加する14グループの地区集団で編成した「学校子ども会」を設立し、7年目を迎えました。

## 仲町 かみねレジャーランド 乗り物乗り放題

11月27日、青空のもと会瀬・助川・中小路・宮田・仲町と、5つのコミュニティ共催でレジャーランド乗り物3時間乗り放題のイベントを開催しました。

参加者は約350人、子どもたちは時間いっぱいまで走り回って楽しんでいました。最後に抽選会を行って楽しいひとときを終了しました。



## 成沢 エリア38の導入 ※道路交通法第38条への取組のこと

安全な道路横断となることを目的に成沢学区のコミュニティとしての取組を開始します。

学区内の横断歩道で横断しようとする歩行者がいた場合、横断歩道の直前で停止し、安全に横断できるよう取り組みます。運転者への交通安全に対する意識付けと地域内での立て看板による表示、また、マグネットシート等による車両への貼付けで周知していきます。

## 大久保 大久保まつり 巨大迷路とガラポン

11月6日(日)大久保交流センターと多賀市民会館大ホールをメイン会場に、3年ぶりとなる大久保学区のおまつりを開催しました。

おまつりの名称や内容も一新し、雨天時でも開催できるよう室内を利用しました。新たに「巨大迷路」と「ガラポン抽選会」をメインのお楽しみとしたため、子どもたちの参加が多く、楽しそうな笑顔が行き交っていました。



巨大迷路で楽しむ



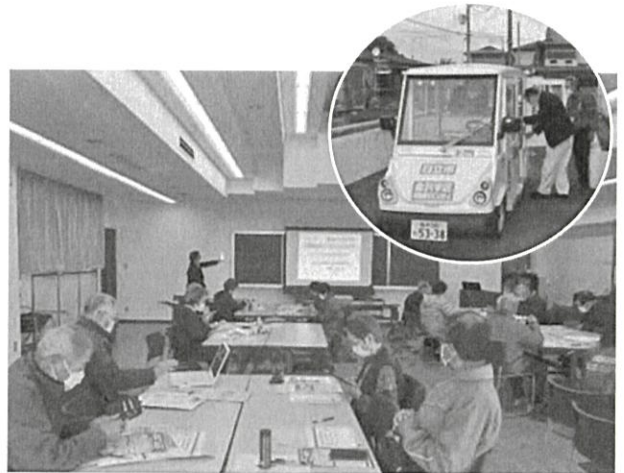
## 大沼 地域で取り組むSDGs

大沼学区では、昨年「大沼スポGOMI」を開催しました。大沼小学校6年生23名及び父兄等40名に参加いただき、環境美化活動をとおして、将来を担う子供たちに「SDGs」に関心を持ってもらうのが狙いです。

初めての事業で参加者を6年生に限定しましたが、次回は5年生にも広げる予定です。

## 河原子 若者集うサーフィンのまち

当会の方針は「皆で協力してきづく、明るく住み良いまちづくり」をモットーに、自然災害に備え防災に力を入れており、常に地域住民に親しまれる活動にも積極的に取り組んでおります。昔から花火と海水浴場で有名な歴史のあるまちで、近年は全国的にサーフィンや野外フェスティバルで知名度が高く、若者が集う素晴らしいまちです。



## 金沢 新規事業へチャレンジ

金沢学区の令和4年度の特筆できる<sup>新</sup>事業は、「ICT化推進事業」・「地域モビリティ実証事業」です。ICT化は、Zoomを利用したオンライン会議を推進、高齢者向けのデジタル勉強会ではスマホの使い方講座を開設しています。地域モビリティは、高齢者のショッピングや通院のための移動を実証しています。

## 策定した10年計画を進行中時代にふさわしい新たなコミュニティへ！

コミュニティ推進協議会は、「コミュニティ活動を中心とした支え合いのまち」の実現のため、策定した計画に沿って、事業を進めています。

特に今年度は、時代にふさわしい新たなコミュニティへの取組として、「スポGOMI大会」や「くさゼロ・フォトコンテスト」を開催しました。



「スポGOMI大会」の様子

同時に、今後のコミュニティの土台となる8つのテーマについて、議論・研究を重ね、次のようになりました。来年度は、この結果や1年間の取組状況を踏まえ、次のステップとなる取組を進めます。

### 新たな人材発掘会議

・次の世代にバトンをつなぐ仕組みとして、コミュニティ役員の任期などに関するガイドラインや、コミュニティ同士が情報共有できる機会を提案

### コミュニティ活動の再点検推進会議

・全てのコミュニティが取り組んでいる活動や重要と考える活動などを数値化し、共有  
・自主防災活動について、活動内容の改善に向けた議論を深める機会を設けることを提案

### コミュニティのよりどころ策定会議

・「よりどころ」策定の必要性について検討し、必要であると結論  
・コミュニティ活動を分かりやすく伝えるための内容を検討

### 財政強化推進会議

・コミュニティ、交流センター運営委員会それぞれに作成した「会計処理ハンドブック」を活用することを提案

### コーディネーター検討会議

・(仮称)まちづくりコーディネーターの必要性について検討し、必要であると結論

配置や役割などについて検討

### 広報活動推進会議

・作成したコミュニティ活動ハンドブック改訂版と交流センターパンフレット概要版を活用することを提案

### 地域のつながり推進会議

・企画の段階から参画するなど、地域内の各種団体との連携を促進することが重要であると結論  
・不動産業者から、住宅購入者等にコミュニティのお知らせをもらえるよう、県宅地建物取引業協会との協定を締結することを提案

### 有償ボランティア検討会議

・コミュニティ活動に対する謝礼を、お金やモノなどで渡すことを検討したが、結果、ポイントで付与する仕組みを活用することを提案

## 編集後記

コミュニティ情報紙「こみこみ」が、記念すべき50号になりました。創刊号は1999年10月1日、これまでの編集員の尽力と市の応援があつてここまで来ました。編集員の取材をとおして、その時代のコミュニティの活動や人材を紹介し、リーダーたちの情熱や思いまでも伝えてきました。また、徐々に、市民に関係の深いごみ問題、防災や福祉活動なども取り上げ、コミュニティと行政の協働事業として記録してきました。情報紙は単なる情報提供だけでなく、

コミュニティ活動の歴史の記録でもあります。情報発信の手法は色々ありますが、紙媒体での情報提供はまだまだ必要とされています。50号の編集委員会では、記念号を契機に新しい紙面で読みやすい情報紙を目指すことを再確認しました。

昨年度から「持続可能なコミュニティ」をテーマに、8つの会議で検討されてきましたが、現在、地域が置かれている高齢社会、住民の地域への関心の薄さなどによって、コミュニティ活動の担い手、事務局を務める人材の減少など、現状の課題を打破できる秘策は見えていない



ように思います。

編集委員会では、持続可能な仕組みを構築できるまで、各コミュニティで議論され続けることを期待します。

コミュニティ情報紙編集委員

西村ミチ江、鈴木東男、  
芳賀隆雄、柴田百恵、  
大窪由美子、大上三千男